繊維ニュース
中国繊維情報10月22日(木)

インビスタ

革新投資、積極的に継続

回復時の機会ロス避ける

「ライクラ・スポーツ・ファブリック」をアピールするビゴル副社長

【上海支局】インビスタアパレルマーケティング担当副社長のサージ・ビゴル氏は、経済回復時にチャンスを逃さないためにも、イノベーション投資を継続すると、上海の「インビスタランデブー2009」で語った。

昨年9月の世界金融危機の発生により、同年終わりから今年初めにかけて需要が後退。トータル・バリュー・チェーンを形成する同社も、世界経済の影響を受けた。現在は、当時に比べて好転してきた。それは、インビスタの親会社であるコークインダストリーの経営理念である「MBM（マインド・ベスト・マネジメント）」と、株式非公開により利益の再投資が柔軟に行えるためと言う。3月にコ社は、10億ドルを再投資し、インビスタの負債を消した。

同副社長は、経済状況がよくなった時にチャンスを逃がさないよう対応できる態勢を整えておくと言う。

インビスタランデブー2009

イノベーション素材を紹介

【上海支局】インビスタは、「インターテキスタイル上海」と協働する形で、「インビスタランデブー2009」を上海新国際博覧センターの西2号館で開いている。今年で6回目になる。728平方㍍の展示面積を使い、生地メーカーを主体とするパートナー35社が参加している。

インビスタアパレルマーケティング担当副社長のサージ・ビゴル氏は、「このイベントは、数多くの業界関係者に対してファイバーやファブリックのイノベーションを紹介するだけでなく、アパレルビジネスのバリューチェーン全体を通して顧客に貢献する」と言う。

今回の展示会でインビスタは、次のようなファーバーやファブリックを中国あるいはアジア・太平洋地域に初めて紹介した。

インナーウエアに使用し縫い目のない衣料品を加速する「ライクラ2・0テープ」▽上級者をサポートするために開発した高性能ファブリック「ライクラ・スポーツ・ファブリック」▽1平方㍍当たり120㌘以下の軽量で洗練された感触を持つ「ライクラ・エクストラファイン・コレクション・ファイバー」▽四つ溝構造を持つ異型断面ナイロン繊維「X6300」による速乾ファブリック「ライクラ・フレッシュFXファブリック」▽バイコンポーネントの「T400」ファイバーを使い形状保持と回復力を可能にした「ライクラ・ラスティングフィット・ファブリック」▽PETボトルなどのリサイクル資源から作られた「クールマックス・エコメイド」。

加えて、ビゴル副社長は、今回は出展していない「ライクラ・ヒュージョン・ファイバー」の存在を明かす。これは、女性の大きな悩みであるパンストの伝線が起きにくく、同時に快適性とフィット感を併せ持つ素材。芯にライクラ、鞘に可融性成分を使ったバイコンポーネント繊維で、特許出願中と言う。

JFW―JC事務局

中国媒体にアピール

国際化を加速する

【上海支局】上海新国際博覧センターで「JFW―ジャパンクリエーション（JC）イン上海」を開催中のJFW―JC事務局は20日、現地記者会見を開き、中国メディアに今回の出展目的や今後の日本におけるJFW―JCについて説明した。

川島朗事務局長は、今回の目的を日本素材の良さを知ってもらうことと、来年4月の「JFW―JC2011春夏」に多くの海外バイヤーの来場を呼び掛けるためと述べた。

中国メディアとの記者会見
（右から中村、貝原、川島氏）

貝原良治実行委員長は「日本の繊維生産が減ってはいるものの、世界から見て素晴らしいものがある。そうした日本のモノ作りの優れた点を見てほしい」と語った。

中村豊テキスタイル事業委員会委員はJFW―JCの国際化について、「アジアだけでなく、今後は欧州も視野に入れて活動したい。また、日本での開催では、海外バイヤーの増加に取り組むが、将来的には海外生産者の出展も検討している」とし、国際化の加速を強調した。

井上氏がセミナー

来秋冬トレンド発表

講演する井上氏

21日は会場内で、トレンドセミナーが行われた。日本からは井上佐知子氏が、「私生活の香り」「科学的欲望」など2010秋冬の日本のトレンドを発表したほか、東京ビッグサイトで開かれた10月のJFW―JCのビジュアルを交えて説明。来年4月のJFW―JCへの来場を求めた。同セミナーには約100人が詰め掛けた。

許副会長がJC訪問

【上海支局】20日の初日にはVIPツアーとして中国の繊維業界首脳が会場を訪れた。日本館には中国紡織工業協会の許坤元副会長が訪問した（写真中央）。JFW―JCのトレンドコーナーでは、日本のJCに出品された生地を見て、「日本の生地は洗練されており素晴らしい」とコメントした。

インターテキスタイル上海2009

初日から来客多く

双日ファッション

季節が錯綜して人気（双日ファッション）

双日ファッションは、春夏、秋冬双方に対応して生地を用意する。初日から客の訪問が多かったという。

双日奔時代〈上海〉貿易が中国で生産した独自企画の「奔時代」と双日ファッションの基幹ブランドである「VANCET」を出展。今回は特に、日本製の和調プリントを充実してアピールしている。

初日の客の出足はよく、メンズのプリント、先染めストライプ、綿のウール風合い、撚り杢使いの中肉、綿麻混の薄地など、春夏物、秋冬物が錯綜して注目されている。

企画力と備蓄力で

瀧定名古屋

瀧定名古屋は中国国内販売の拡大と認知度向上を目的に出展した。上海現法の瀧定紡織品（上海）を05年に設立しており、決済機能を有する。紳士は今回、ポリエステルにプリントし、フェイクファーに見えるジャケット素材を提案。婦人は2ウエイのストレッチパンツ素材やファンシー系光物、圧縮ウールジャケット素材が人気だ。同社は素材開発グループが中国で協力工場を探し、生産・品質管理を行っている。こうした中国素材は現地で検反し、縫製工場に納入。9割が日系アパレル向けだが、「企画力と備蓄力で勝負」と意気込む。

日本品の販路拡大

ヤギ

ヤギは、子会社の譜落革時〈上海〉（プログレス上海）とともに出展した。ここ2、3年はプログレス上海の生地がほとんど100%を占めていたが、今回は日本の生地が約半分を占める。

日本の生地は、アンゴラやマイクロアクリルなどを混紡した高級な複合素材やオーガニック素材など。プログレス上海の知名度向上と中国内販の浸透度が高まったことや高い価格ゾーンの商品にも中国バイヤーが対応できるようになったことから、それに合わせた日本品の販路拡大を図る。

付加価値品を提案

一心行

インターテキスタイル上海初出展の一心行は、キュプラ繊維やウール生地を出品し、加工仕上げ技術や原糸の独自性などを「メード・イン・ジャパン」の付加価値を提案した。

初日の来場者は、上海、広州、香港、台湾など各地からで「G2000」や「H&M」の関係者も同社ブースを訪れた。荒木恒潤取締役営業部長は「10月上旬の香港展示会以上のにぎわいと活気を感じる。香港や台湾の顧客がわざわざ足を運ぶ上に、欧米系の来場者も多い。インテキ上海は名実ともにアジアを代表する展示会になっている」と、上海展示会への注目度の高さを再確認した。

ロンシャンが現法

東京織商

東京織物卸商業組合で出展したロンシャンは10月に杭州の現法である外与龍郷（杭州）貿易を設立し、内販と貿易業務を開始した。日本素材を中国の日系アパレル向けに販売するもので、シルク、合繊、プリントなどを提案する。将来的には日本企画での中国生産も視野に入れる。

転写マーク紹介

アステム

スポーツウエアの転写マークの開発・販売を手掛けるアステムは、同社主力製品の転写マークを中心に出展し、中国系の縫製・企画業者向けの事業拡大を目指す。日本製の接着剤とインク使用など品質を重視。ポリエステル素材への適性の高さ、仕上がりの均一性も強調した。ブースを訪れた中国人客は加工機を持たない業者も多く、製品納入についての問い合わせもあった。

リネンデニムを展開

林与

リネンのジーンズ

林与はリネンのデニムを出品した。化学染料による糸染めで、洗いによる表面感は綿と変わらない。1㍍で25㌦（FOB）ながら「これまでにない商品ということで、日本でのJFW―JCでも好評だった」という。また、オーガニックリネンのストールは特殊加工でソフトなのが特徴。さらに140単のアイリッシュリネンハンカチーフも提案した。「価格ばかりの衣料市場だが、値段に流れるのではなく、本当によい素材を追求していく」と考えだ。

インターテキスタイル 上海 2009

新ビジネスモデル構築

伊藤テキスタイル

メード・イン・ジャパンにこだわった出品（伊藤テキスタイル）

伊藤テキスタイルは佐々木要右衛門商店と協力し、ハイテンション素材と蓄熱素材をメーンに打ち出した。「メード・イン・ジャパン」にこだわった出品で、ストレッチ素材のツイードとハイテンションプリントが来場者の注目を集めた。

「メード・イン・チャイナ製品のクオリティ向上が著しく需要も高い。そうした中で、中国ビジネス戦略を構築するには、現地に提携工場があれば有利」と最大のクライアントで、中国に工場を構えていない佐々木要右衛門商店と協働。両社の関係は「生地のみの販売なら佐々木要右衛門、製品での納入が必要なら提携縫製工場のある伊藤テキスタイル」と、お互いの長所を生かした。アイデアと技術を持ち寄ることで、新しいビジネスモデル構築に取り組む。